

K-らいふ

全学
一体

Activity Report of 2023

令和5年度 活動報告

- 1 敬宮愛子さまを奉迎、退任によせて ほか
- 2 令和5年度 学位記・修了証書授与式、卒業式を挙行 ほか
- 3 卒業生随想
- 4 オーディエンス賞は「大学生による『大学生向けごみ分別啓発活動』」
◆令和5年度「伊勢志摩定住自立圏共生学教育プログラム」学修成果発表会 ほか
- 5 文科省視学官を迎え「小学校外国語教育研究会」開催
「ヘルメットのサブスク」案で、現代日本社会学科の学生が優秀賞
◆33FGビジネスプランコンテスト2023 ほか
- 6 教学振興会寄付者芳名、クラブ応援メッセージ募金納入状況報告
- 7 研究開発推進センター トピックス
- 8 デキゴトロジー



愛子さまの伊勢訪問は平成26年7月に両陛下と参拝されて以来

敬宮愛子さまを奉迎

天皇、皇后両陛下の御長女、愛子内親王殿下が3月26日に三重県を訪問し、伊勢神宮を参拝された。御一方での地方ご訪問は今回が初めて。

大学の教職員・学生たちおよそ200名は14時40分頃、正門前の御幸道路沿道に整列。日の丸の小旗を振り、御駐泊先の鳥羽から外宮へ向かわれる殿下を奉迎した。また、16時頃、外宮から内宮へ向かわれる際、殿下はマスクをはずしておられ、にこやかに手を振ってお応えになった。



愛子さまの御用車を待つ教職員・学生たち

この日は朝から雨模様であったが、殿下の参拝時は晴れ間がのぞき、話題となった。

退任によせて

退任によせて

令和5年度に退職された方々から寄せられたメッセージをご紹介します。

文学部教授 メイヨークリstoffアー



3月31日をもって、皇學館大学を退職し、名古屋学院大学へ移籍することとなりました。平成26年に文学部コミュニケーション学科に着任して以来、教室で何千人もの学生と共に有意義な時間を過ごしてまいりました。共通科目の「英語表現」、「皇学入門」や専門科目の「海外事情」、「日本文化史」やゼミなどを担当し、コミュニケーション

ション学科だけでなく、全大学の学生と交流できたことに深く感謝しております。

専任教員としての在職期間は短かったかもしれませんが、実はコミュニケーション学科が24年前に設立された際には、コミュニケーション学科主催の高校生英語スピーチコンテストに引率者として参加し、それ以来、皇學館大学との深い縁を感じてまいりました。

皇學館大学は、教職員や学生が日本の歴史・文化・精神を学んだり、研究したりしているばかりでなく、日々の活動の中で

も日本のこころを体現している特別な空間だと思います。このユニークな環境で教育研究に従事することができたことを誇りに思い、感謝の意を表したいと思います。

「学問報国」の精神で

現代日本社会学部教授 新田均



昭和63年4月に神道研究所助手を拝命して以来、令和6年3月で満36年、何とか無事に停年を迎えることが出来た。この日までに、お世話になった多くの方々に、先ずは心よりの感謝を申し上げたい。

採用の際には、今は無き先生方の面接を受けた。鎌田純一先生、谷省吾先生、真言常忠先生。これらの先生から聴かされたのは、皇學館再興の際の諸先輩方の思い、苦労、エピソードだった。ある理事は、家族を集めて、再興の資金を得るために家屋敷を抵当に入れる許しを請うた。遅配となった給料袋には、神社の賽銭箱から集められたために、1円玉が多数入っていた。

思います。専任教員としての職務を終えることになりましたが、本学で非常勤講師としてご縁が続くことを心より嬉しく思います。初日から最終日まで温かいご支援をいただき、教職員の皆様には心より感謝を申し上げます。4月以降も、引き続きご指導いただきますようお願いいたします。

日教組教育の克服を目指して教育学科を設置した際には、教育実習を受け入れてくれる学校を見つけたのが大変だった。近代神道を専門とする私に課せられたのは、神宮皇學館を廃校に追い込んだ「神道指令」の克服だった。神社神道と皇學館に「戦争責任」の烙印を押ししたこの指令の不当性を明らかにして名誉回復が出来るように、「学問報国」の精神で本館に貢献する意志があるか。それが、面接での共通の問いだった。

その期待に応えようとして執筆したのが「近代政教関係の基礎的研究」「現人神」「国家神道」という幻想「首相が靖国参拝してどこが悪い!!」「皇位の継承」等の拙著である。幸い、今後まだ、大学院の神道学専攻で特別教授として研究を続けられることになった。期待された成果となっていないか、それを問いたがら、もう少し頑張ってみようと思っている。

令和4年度 優良教育実践

※職位は表彰時

| 実践教員 | 実践の種類 | 実践の名称 |
|-------------------|---|--|
| 国史学科 准教授 谷戸 佑紀 | ●授業改善 ●方法の開発 | 歴史資料の効果的活用とその方法の体系化 |
| 教育学科 助教 萩原 浩司 | ●授業改善 ●アクティブ・ラーニング ●その他(学生の授業実践力向上) | 授業実践力向上を目指した演習科目の取り組み—「つばさ」における学生の課題を基に— |

教職員人事

令和6年3月31日付

大学

退職

文学部コミュニケーション学科 教授
メイヨークリstoffアー

文学部神道学科 特命准教授
岩城 隆宏

現代日本社会学部現代日本社会学科 教授
新田 均

監査室室長
早川 照彦

神職養成部部長
秦 昌弘

総務部総務担当 主事
木村 知佳

財務部管財担当 主事
齋藤 愛美

高等学校・中学校

退職

学生支援部学生担当 事務嘱託
歌代 勇祐

高校副校長
田浦 雅徳

高校常勤講師
井出 宏

高校常勤講師
佐々木英人

高校常勤講師
野呂明日香

高校常勤講師
古市 野愛

中学校教諭
安道 里巳

中学校養護教諭
石田 利恵

ダンフォードゴードンロ

皇學館大学出版部 新刊書籍のご案内

令和5年度に出版された新刊本のご紹介です。

皇位継承の儀礼
佐野真人著 定価7242円(税込)

平安時代の讓位儀式、剣聖の渡御、内侍所神鏡の奉還、高御座の由来、大嘗祭史料を分析して、これまで儀式書だけでは窺うことができなかった、儀礼の実像に迫ろうとする。

神宮御師資料 第11輯 福島大夫文書
研究開発推進センター史料編纂所編 定価2500円(税込)

神宮文庫所蔵の「福島大夫関係御師文書」の写真版と翻刻を掲載。759頁で紹介した神宮御師・福島(福島)勲左衛門家関係文書の続編として、関係文書を紹介。

講演叢書 令和4年度神道博物館教養講座
〔第205輯〕
近代神道史における皇學館の創立
高野裕基著 定価524円(税込)

〔第206輯〕
神宮皇學館の海外修学旅行
長谷川 怜著 定価524円(税込)

〔第207輯〕
近代教育制度と神宮皇學館
秦 昌弘著 定価524円(税込)

〔第208輯〕
「大神都聖地計画」と神宮皇學館の大学昇格
田浦雅徳著 定価524円(税込)

ご注文の際は、出版部ホームページ(右記のコードからアクセスできます)からお申込みください。

<http://shuppan.kogakkan-u.ac.jp/>



令和5年度 学位記・修了証書授与式

689名が新たな門出

令和5年度学位記・修了証書授与式が令和6年3月18日に本学記念講堂において挙行され、学部生(文学部・教育学部・現代日本社会学部)665名、大学院生7名、神道学専攻科生17名の計689名が倉田山での学生生活の思い出を胸に、それぞれの道へと旅立った。

授与式前の神宮参拝は5年ぶり

冷たい風が吹き荒れ、春の風となった3月18日、学位記・修了証書授与式が挙行された。

5年ぶりに授与式前の神宮参拝が実施され、艶やかな袴や凛凛しいスーツに身を包んだ学生たちは、午前8時30分、外宮表参道手水舎前に集合。外宮を正式参拝した後、内宮では御垣内参拝を行い、コロナ禍を乗り越え無事に卒業を迎えられた喜びを奉告した。

午前11時半に始まった授与式では国歌斉唱、令旨奉読に続き、博士前期・修士課程修了者、神道学専攻科修了者、3学部卒業者の各総代が登場し、学位記・修了証書を受け取った。続いて恩賜奨学賞、大宮司賞等の受賞者に賞状と記念品が手渡された。

「進取の気概で社会を切り拓いて」

河野訓学長は式辞で、教室での分散開催となった令和2年度

の入学式や多くの制約を強いられた学生生活を振り返り、「神宮

参拝を行い、本記念講堂で卒業式を挙行できることは大きな慶び」と感慨を口にした。続けて「卒業してゆく皆さんは本学にとつて教育の大切な成果。一人ひとりが自分の専門を生かし、それぞれの進む分野で活躍してくれることを願っています」とエールを送った。また、何のた

大学で叶えたプロへの道

本学初のプロ野球選手(埼玉西武ライオンズ)となった村田怜音さん(教育)は「4年間、プロ野球選手をめざしてやってきました、実際に大学で叶えられてよかった」と話し、「結果が出なかった中でも4番として試合に出させていただき、経験を積むことができた」と森本監督や野球部の仲間への感謝を口にした。今後については「まずは1年間、ケガをせずやり切ることが目標。数年後はレギュラーにな



「フィールドワークと4年生での倉陵祭が印象に残っている」と話す村田さん

つて、チームを背負っていける選手になりたい」と抱負を語り、「三重県を離れるのは寂しい気持ちもあるが、大きくなって帰って来られたら」と笑顔で話した。

答辞を読み上げる大津さん(高校)



高等学校307名、中学校25名が卒業

皇學館高等学校では3月1日に、皇學館中学校では同月19日に令和5年度卒業証書授与式が挙行された。

芝崎俊也校長は式辞でコロナ禍の影響を最も受けた時期に入学し、制約の多い状況を乗り越えた生徒たちを「言うに言われぬ気持ちの中で学校生活であったはず」と慮った。一方で、令和5年度に高等学校創立60周年、中学校創立45周年の佳節を迎え、記念式典や合同体育大会など充実した周年記念行事を経験できたことから、「記念の年の卒業生となったことは、皆さん一人ひとりの心に留まることと思っております」と述べた。そし



セミナーホールで執り行われた中学校卒業式。答辞を読み出す山下さん

て、賀陽宮邦憲王殿下からいただいた令旨には本校で学ぶ意義と学ぶにあたっての姿勢や態度が克明に明示されているとし、「自らが学んだ力を世のため、人のために活用し、よりよい社会を作り上げていくことが、まさに本学で学ぶ者の心するところ。歴史と伝統ある皇學館で学んだ誇りを胸に、一人ひとりが力を発揮してほしい」とはなむけの言葉を贈った。

高等学校の大津拓己さんは答辞で「私たちの高校3年間は、コロナ抜きでは語れません。それくらい縛られた毎日でした」としながらも、「学校に行けることや人に会えること、本日のように満面の笑顔が見られること、そのありがたみを今、痛いほど感じています」とし、「共に笑い、共に泣き、互いに鼓舞し合い、時に衝突してでも親身になって相談に乗ってくれた友人たち。授業、放課後、帰り道、すべてが「密」そのもので、かけがえない時間でした」と学校生活を振り返った。

中学校の山下輝之さんは「皇學館中学での3年間は先生方のご指導のもと、地元伊勢から三

感謝

令和5年度卒業生より記念品を贈呈していただきました。大切に使用させていただきます。
● 皇學館大学学部生一同
一、ワンボックスカー 1台
一、図書館ハイカウンター・椅子
● 皇學館大学神道学専攻科修了生一同
一、書籍
● 皇學館高等学校卒業生一同
一、トロフィー・楯展示ケース

大阪大学合格体験記(抜粋)



3年10組 深津弘季

基礎の積み重ねが大切

法は高1の夏休み中に全て習得し、自習に多くの時間を割きました。しかし、メンタルが弱くなると、僕も高1から定期考査や朝テストの二つひとつに本気で取り組んでいました。たとえ難問大であれ、結局問われているのは定期考査レベルの簡単なことです。にもかかわらず難関大が難しいのは、毎日コツコツと基礎を積み重ねることが簡単そうでも、3年間続けられる人はほほえないからです。僕は予備校を活用し数学IAⅢは高2の6月までに、英文

重県、日本国から世界へと学びを広げ、グローバルな感覚が身に付くように準備された、たくさんの研修や実体験を通して、自分の成長を実感させていただきました」と感謝の気持ちを述べた。そして、世界に目を向ければ戦争や災害などたくさんの不安情報があふれている中であっても、「自分の力を信じ、友を信じ、明るい未来を信じ、これから3年間の努力を約束します」と力強い言葉で締めくくった。



本学記念講堂で挙行された高等学校卒業式

| 総代・各種表彰者 | | | |
|----------------------------|------------------|-----|-----|
| 総代 | 文学研究科国文学専攻博士前期課程 | 楊 | 瑩 |
| | 教育学研究科教育学専攻修士課程 | 上田 | 虎徹 |
| | 神道学専攻科 | 有馬 | 里佳 |
| | 文学部神道学科 | 伊藤 | 大智 |
| | 文学部国文学科 | 正木 | 音羽 |
| | 文学部国史学科 | 野中 | 徹 |
| | 文学部コミュニケーション学科 | 三村 | 花菜乃 |
| 教育学部教育学科 | 磯部 | 智貴 | |
| 現代日本社会学部現代日本社会学科 | 石井 | 陽菜 | |
| 恩賜奨学賞 | 文学部コミュニケーション学科 | 田中 | 佑奈 |
| 大宮司賞 | 文学部国文学科 | 下村 | 莉奈 |
| | 教育学部教育学科 | 齋藤 | 里穂 |
| 理事長賞 | 現代日本社会学部現代日本社会学科 | 森 | 知帆里 |
| | 文学部国史学科 | 山下 | 拓海 |
| 学長賞 | 文学部神道学科 | 熊崎 | 響子 |
| | 神道学専攻科 | 長坂 | 貴秀 |
| 統理賞 | 文学部神道学科 | 豊田 | 蒼空 |
| | 文学部神道学科 | 福田 | 友也 |
| 三重県社庁長賞 | 文学部神道学科 | 佐藤 | 京香 |
| | 文学部国史学科 | 筒井 | 啓仁 |
| 長谷奨学賞 | 文学部国史学科 | 小西 | 嘉宏 |
| | 文学部国文学科 | 高橋 | わか |
| 送辞 | 文学部国文学科 | 高橋 | わか |
| 答辞 | 文学部国文学科 | 高橋 | わか |
| 社会福祉士養成校の養成課程修了者に対する協会表彰 | | | |
| 現代日本社会学部現代日本社会学科 | | 山下 | 諒 |
| 精神保健福祉士養成校の養成課程修了者に対する協会表彰 | | | |
| 現代日本社会学部現代日本社会学科 | | 中世古 | 剛志 |
| 保育士養成課程の卒業生に対する会長表彰 | | | |
| 教育学部教育学科 | | 稲垣 | 柚希 |

道を見つけた、大学生活

神道学科 鎌田 千寛

就職先 賀茂別雷神社(上賀茂神社)



皇學館大学での4年間は一瞬で過ぎてしまった。しかし、充実した大学生活を送ることができた。

大学に入学した当初は、自分が将来何をやりたいのか見当もついていた。そんな私が神職という道に進みたいと考えた一番の理由は、雅楽部での活動だ。私は「笙」という楽器を担当していたが、入部したての頃は初めて触る楽器に悪戦苦闘しなかなかなと思うように演奏することができなかった。しかし、先輩方からの助言を吸収し、部員と共に毎日の地道な稽古に励んだ結果、難曲も演奏できるようになった。コロナの影響が落ち着いた頃になると外部からの演奏依頼も増えていき、神前で演奏する機会が増え、多くの人たちに喜んでいただけた。こうした活動を通して私は神様を敬い祀る大切さを知り、今後も神様にご奉仕をしていきたいと思い、神職になることを志した。

自分の将来を決めることができたのは、皇學館大学での生活や友人や先生方、両親の支えがあったことです。本当にありがとうございました。この道が自分に合っているか正直不安に思うが、自分で選んだ道を精いっぱい進んでいきたい。

社会へ羽ばたく力を養えた

国文学科 島田 朋葉

就職先 株式会社杏林堂薬局



コロナ禍で入学時からさまざまな制約がある中、たくさんの貴重な体験をすることができました。一つは、大学附属図書館サポーターの活動です。その活動の一環として「学生協働フェスタ」という他大学との交流会にオンラインで参加させていただきました。図書館のマスコットキャラクターが館内ツアーを行うという紹介動画は好評をいただき、とてもうれしかったです。この活動を通して、計画的に物事を進める力やリーダーシップが身についたと感じています。また、ゼミでは中古文学を専攻し、輪読や翻刻を行いました。研鑽を積む中で、古文の読解力を培い、学問を追究することの楽しさを学ぶことができました。このように豊富な体験を通して社会へと羽ばたいていける力を育むことのできる皇學館に入学できて本当に良かったです。お世話になった先生方、そしてここまで支えてくれた両親にお礼申し上げます。

培った知識と技術を糧に

国史学科 田宮 佑至

就職先 株式会社クスリのアオキ



皇學館大学で送った4年間の学生生活は、毎日が新鮮でも充実したものでした。多くの方々の支えと導きにより、こうして卒業を迎えられたことを嬉しく思います。

先生方の丁寧なご指導のもと、勉学に励んだ時間はとても楽しく有意義なものでした。特に、論文を2本執筆する機会を頂けたことは大変光栄であり、貴重な財産となりました。また、学芸員課程を通じて、多様な経験と学びを得ることができました。これらは、これから先の未来において自身の強みとなることと思います。

さまざまな良き出会いに恵まれ、知見を深められたのは新たな興味を持つきっかけとなり、かけがえのないものでした。皇學館大学で培った知識と技術を糧に、感謝の気持ちを忘れず今後も精進してまいります。

最後になりましたが、4年間ご指導いただいた先生方、学芸員課程でお世話になった先生方に心より御礼申し上げます。

周りの人の支えに感謝

コミュニケーション学科 森本 彩水

就職先 三重県警察



私の学生生活は周りの人の支えがあって頑張ってきた。

「就活って何から始めるの?」という不安と焦りを抱きながら、2年前、就職担当の皆様へ助けを求めたのを覚えている。そこでさまざまな職種を知り、たくさん迷い、その上で警察官になりたいという思いが強くなった。面接練習では厳しくも温かいご指導をいただき、私が諦めかけたときは何度も鼓舞してくれた。周りの友人とも悩みを共有して励まし合い、一緒に前進していった。そして4月から、警察学校への入校が決まっている。

試験は最終的には一人で臨むものだが、その過程では多くの人々の力を借り、そこで初めて乗り越えられるものがあると知った。就職担当の皆様をはじめ、友人、家族、ゼミの先生方、若榎サポーターの方々、本当にかげがえのない人たちに支えられてきた4年間であった。

ここで受けたたくさんの支えを胸に刻み、今度は私が警察官という職を通して恩返しをしていきたい。

卒業生随想

春からそれぞれの志す道を歩き始める卒業生たち。

学生生活を振り返り、彼らの胸中に去来するさま

ざまな思いを語ってもらった。

先生の間いが転機に

教育学科 水谷 一心

進学先 筑波大学大学院



大学に入学した当初は、周囲よりも少しだけ数学が好きだったという理由で「算数・数学教育ゼミ」を選択した。初めは「数学ができる」という漠然とした考えしか持っていなかった。しかしあるとき、ゼミの上野祐一助教の何気ない問いが私の好奇心に火をつけた。これが私の大きな転機となった。

興味を持った1つのことについて、長い時間をかけ考えることは初めての経験であり、自分が進めていることは正しいのか、形になるまで不安だった。不安の中でも、自分自身で新しい方法を発見したときや、今まで知らなかったことを知ることができたときに大きな喜びを感じた。その喜びが研究にのめり込ませた。また、日本科学教育学会で発表させていただいた際に、私自身の研究にさまざまな人が興味を持っていただいたことが自信になった。これらの経験から、もっと数学や数学教育について勉強がしたいと思い、大学院進学を決めた。

コロナ禍で何もなかった大学生活に、熱中できるものや、大きな目標を与えてくださったことや、目標に向けさまざまな支援をいただいた先生方、ありがとうございました。大学院ではより一層成長することができるよう励みたいと思います。

数々の挑戦がかけがえのない財産に

現代日本社会学科 金崎 和奏

就職先 株式会社リボルブ沖縄



私は大学進学と共に三重県に移住しました。コロナウイルスが流行しはじめた年に入学し、慣れない生活に苦戦しましたが、それでも4年間頑張ってきたのは周囲の人の支えがあったからだと思っています。

大学生活で印象深かったことは2つあります。1つ目は就職活動です。はじめは業界を絞らずに就職活動を進めていましたが、選考を進めるうちにIT業界に挑戦したいと考えるようになりました。未経験ながらIT系資格を取得し、SEとしての採用が決まりました。2つ目は卒業論文の執筆です。私はパレスチナ問題をテーマに決め、このテーマに関わりの深い先生のゼミを選び、フィールドワークの準備を進めてきました。社会情勢悪化のため現地へ赴くことはできませんでしたが、問題の解決を具体的に示すことで、共存の道を切り開くような論文が完成しました。

この4年間で数々の挑戦をしてきました。そのどれもがかけがえのない私の財産です。

人生で一番充実した時間

大学院修士課程教育学専攻 西 奈緒

就職先 学校法人エスコラピオス学園海星中学校・海星高等学校



皇學館大学の大学院教育学研究科教育学専攻で学ばせていただいた2年間はとても貴重な時間であり、人生の中で一番充実した時間でした。学部では、勉強と部活の両立に必死だった4年間でしたが、大学院では、勉強と研究の両立に必死だった2年間でした。大学院に進学する前は「修士論文を書くことはできるのか」「2年で何か学びとることはできるのか」「柔道部のコーチとしてやっていけるのか」と不安ばかりでした。入学後は叱られることも沢山ありましたが、それ以上に学びが多くあっという間に2年が経ちました。授業やTAをはじめ、柔道部のコーチとしての立場など、多くの経験を通して身に付けた力は大切な宝物となりました。これらの経験を生かして社会人として地域に貢献できるように努めていきます。最後に、何度も挫折そうになりましたが、背中を押していただいたおかげで最後までやり遂げることができました。ご指導くださった先生方、本当にありがとうございました。

文科省視学官を迎え 「小学校外国語教育研究会」開催 英語教育の小中連携をテーマに



小中連携についてご講演される直山視学官

小学校外国語教育研究会 2024-3 in Mie (主催) 小学校英語教育学会三重支部・三重県小学校英語教育研究会、後援 皇學館大学・三重県教育委員会・伊勢市教育委員会・志摩市教育委員会が3月2日、本学で開催され、県内外から小・中・大の教員や行政関係者、本学の学生等、51名が参加した。

4月より小学校3年生から新課程の英語教育を受けた子供たちが初めて中学校へ入学するため、研究会のテーマは「英語教育における小中連携」であった。午前中は、志摩市並びに三重県教育委員会指導主事と本学川村一代准教授による「小中連携を促す英語教育教員研修パッケージ」

「三重バージョン」昨年度小学校で英語の授業を行った中学校教諭による「中学校への円滑な接続を見据えた小学校英語の指導内容の工夫について」という実践報告があった。午後は、文科科学省直山木綿子視学官の

講演「円滑な小中連携のためにー共通点と相違点を踏まえて指導するー」があり、小中連携の重要性や具体を学習指導要領に基づき、わかりやすくお話いただいた。本会が本学で開催されるのは

5年ぶりであった。本会のスタッフや参加者の中には本学出身者があり、久しぶりに訪れた母校を懐かしむ姿も見られた。川村一代(本学コミュニケーション学科准教授・小学校英語教育学会三重県理事・三重県小学校英語教育研究会会長)

「ヘルメットのサブスク」案で、現日の生田愛奈さん、松島朋花さんが優秀賞

33FGビジネスプランコンテスト2023

三十三フィナンシャルグループ主催の「33FGビジネスプランコンテスト」学生コースにおいて、現代日本社会学科2年の生田愛奈さん、松島朋花さんの「プラン「ヘルメットのサブスク」

「ヘルメットのサブスク」が優秀賞に輝いた。3月4日、四日市商工会議所で表彰式が開

催され、賞状と賞金が贈呈された。プラン考案のきっかけは自転車に乗った高校生が車にはねられなくなったとのニュース。ヘルメットを着用していたら助かったかもしれないと感じ、ヘルメットを安全に使用してもらえ

るサービスを思いついた。内閣府発行の「令和5年版交通安全白書」によると、平成25年から令和4年の自転車乗車中の死亡事故について、ヘルメット非着用時は着用時と比べ致死率が約2.4倍になることが明らかにしている。また、令和5年4月1日よりヘルメットの着用が努力義務化されたが、着用率が全国では13.5%、三重県では26.5%と低いのが実状だ。

生田さんは「現状を踏まえて課題を発見し、解決に向け深く考える力を身に付けることができたと語り、松島さんは「プランの発表を本手にして自身のプレゼン能力を高めていきたい」と、松島さんは「就職活動に今回の経験を生かしていければ」と語り、爽り多い体験となった。

33FG ビジネスプランコンテスト2023



賞状と副賞を手に喜ぶ生田さん(左)と松島さん

必要性が伝わるよう論理的なデータや独創的なアイデアを取り入れた。何度か話し合い考えたことによりよいプランになったと思う」と話した。2人とも優秀賞に選ばれたことに驚いたようで、「アドバイスしていただいた方々に感謝の気持ちでいっぱい」と顔をほころばせた。今後について生田さんは「表彰式で見た他の応募者の発表を本手にして自身のプレゼン能力を高めていきたい」と、松島さんは「就職活動に今回の経験を生かしていければ」と語り、爽り多い体験となった。

令和5年度 奨学金受賞者

学内奨学金授与

皇學館大学給付奨学金 (10万円)

国文学科3年 西潟史有香
コミュニケーション学科3年 平山 未菜
教育学科3年 安藤みち子
現代日本社会学科3年 中西 美樹

慶光院俊奨学金 (10万円)

国文学科4年 三宅あゆみ
神道学科3年 藤丸 向日
神道学科4年 福田 友也
神道学科3年 中島 愛
神道学科2年 山田ひかり
神道学専攻1年 長坂 貴秀

館友会奨学金 (10万円)

神道学科3年 中川 隼
国文学科3年 渡部 倅世
国文学科3年 高殿 紗綾
コミュニケーション学科3年 上村 駿介
教育学科3年 奥森 晴香
現代日本社会学科3年 松野 笙子

長谷奨学金 (10万円)

国文学科4年 筒井 啓仁
神道学科3年 姉川 優妃

専の会教育奨励賞 (図書カード3万円分)

神道学科4年 熊崎 響子
国文学科4年 下村 莉奈
国文学科4年 山下 拓海
コミュニケーション学科4年 森 麗名
教育学科4年 磯部 智貴
教育学科4年 前田 朋香
現代日本社会学科4年 石井 陽菜
神道学科3年 網岡 茉弥
国文学科3年 森岡 夢
国文学科3年 濱口 恵美
コミュニケーション学科3年 戸嶋 詩苑
教育学科3年 居森ふうか
教育学科3年 森岡 達也
現代日本社会学科3年 角谷 透哉
神道学科2年 釜本奏太郎
国文学科2年 山中 永羽
国文学科2年 間柄 詩織

学外奨学金授与

伏見稲荷大社奨学金 (24万円)

神道学科4年 豊田 蒼空
神道学科3年 久米橋幹太
神道学科2年 赤堀 寛弥

神宮特別奨学金 (20万円)

神道学科4年 鎌田 千寛
神道学科3年 鈴木 秋津

全国敬神婦人連合会奨学金 (15万円)

神道学科3年 渡部希実子

八坂神社奨学金 (10万円)

神道学専攻博士前期課程2年 水谷 恭子

令和5年度 学長奨励賞

団体の部

柔道部 ●全日本学生柔道優勝大会(男子72回)出場(6/24)
●全日本学生柔道団体別団体優勝大会(男子25回)出場(10/21)

個人の部

松平 瑤 (国文4) ●第39回読売書法展 漢字部門で秀逸賞
中川 陽 (教育1) ●第39回U20日本陸上競技選手権大会・混成競技出場3位(6/10)

本木 靖 (教育4)

●全日本学生柔道体重別選手権大会出場(9/30/10/1)

山村 隆斗 (教育4)

●全日本学生柔道体重別選手権大会出場(9/30/10/1)

澤田 大輝 (現日4)

●全日本学生柔道体重別選手権大会出場(9/30/10/1)

島 健 (現日4)

●全日本学生柔道体重別選手権大会出場(9/30/10/1)

瀧川 力 (現日4)

●全日本学生柔道体重別選手権大会出場(9/30/10/1)

金山 剛史 (教育3)

●全日本学生柔道体重別選手権大会出場(9/30/10/1)

若谷 怜 (教育2)

●全日本学生柔道体重別選手権大会出場(9/30/10/1)

南 大志 (現日2)

●全日本学生柔道体重別選手権大会出場(9/30/10/1)

令和5年度 春季フィールドワーク日程一覧

| 学科 | 引率教員 | 日程 | 目的地・方面 |
|------|-------------------|---------------------|-----------------|
| コミ | 張 磊 | 2/26(月)~2/29(木) | 北海道 |
| 国内教育 | 萩原浩司 渡邊賢二 | 2/24(土)~2/27(火) | 九州(福岡・長崎) |
| | 吉田明弘 吉田直樹 豊住 誠 | 2/24(土)~2/27(火) | 沖縄 |
| | 加藤 純一 | 2/25(日)~2/27(火) | 九州(福岡・長崎) |
| | 中條敦仁 野々垣明子 | 2/25(日)~2/29(木) | 九州(福岡・長崎・佐賀) |
| | 上野祐一 小川真由子 | 2/26(月)~2/28(水) | 沖縄 |
| | 井上兼一 渡邊 毅 | 2/26(月)~2/29(木) | 広島、岡山 |
| | 土谷長子 | 2/29(木)~3/2(土) | 沖縄 |
| | 片山靖富 叶 俊文 | 3/5(火)~3/8(金) | 北海道 |
| | 海外教育 | 大杉成喜 高橋摩衣子 駒田聡 子 | 2/24(土)~2/27(火) |
| 佐藤武尊 | | 3/4(月)~3/8(金) | タイ(バンコク) |

教学振興会 寄付者芳名

ご挨拶

学校法人皇學館理事長 小串和夫

平素より本学園の教育・研究活動に
対し、格別のご高配を賜り、謹んで厚
く御礼申し上げます。

さて、教学振興会につきましては、
令和5年度におきましても多くの方々
のご入会、ご支援をいただき、改めま
して皆様方のご芳志に對しまして、心
から厚く御礼申し上げます。

ご承知の通り、本学の建学の精神は
明治33年に賜った賀陽宮邦憲王殿下
の令旨に明示されております。即ち我
が皇學館のめざすところは、一口で表
現すれば日本の道義の確立と探究、か

つ、その実践にあります。教学振興会
ではそうした社会有為の人材を育成す
べく、様々な修学支援を行ってまいり
ました。ひとえに皆さま方のお力添え
による賜物と感謝申し上げます、更なる教
育環境の充実に努めてまいります。
ここに令和5年度にご入会いただき
ました皆様方のご芳名及び寄付金納入
状況をご報告させていただきます。
今後とも「教学振興会」への温かい
ご支援を賜りますよう、心よりお願い
申し上げます。

令和5年度ご入会者ご芳名(再入会者含む)

宗教界

- 東京都 全国神社スカウト協議会様
兵庫県 宗教学人四宮神社様
広島県 広島護国神社様
熊本県 熊本市 木戸馬場八幡宮様
大阪府 住吉大社様

企業

- 三重県 株式会社伊藤工務店様
福井県 株式会社エコス様
福井県 フコク商事株式会社様
福井県 丹治政文様

館友

- 福井県 丹治政文様

皇學館クラブ応援メッセージ募金の御礼

令和5年度も多くの皆様にご支援をいただき、厚く御礼申し
上げます。下表の通り、令和5年度の納入状況及びクラブへの
配分金額をご報告させていただきます。
「皇學館クラブ応援メッセージ募金」は、クラブ活動を通して
学生・生徒の主体性等を伸ばすために開設しました。ホームペ
ージから、支援したいクラブをご指定いただき、募金手続きやメ
ッセージの投稿が可能となっております。いただいた募金は、指定
されたクラブに年2回にわけてお渡しし、投稿メッセージはク
ラブにお伝えし、ホームページでもご紹介させていただきます。
詳細は、右記から公式ホームページ内の寄付金
ページにてご確認ください。
令和6年度も、引き続き皆様からのご支援を賜
りますようよろしくお願い申し上げます。



Table with 4 columns: 区分, 件数, 納入金額(円). Rows include 企業 (6, 172,000), 館友 (54, 495,000), 尊の会会員 (6, 46,000), 一般(篤志家等) (1, 10,000), 本法人関係 (14, 92,000), 合計 (81, 815,000).

Table with 4 columns: 指定先クラブ名, 件数, 配分金額(円). Rows list 23 clubs with their respective donation counts and amounts, totaling 81 items and 801,388 yen.

※各クラブへの配分金額は、寄付金額から手数料を差し引いた金額となっております。



令和5年10月26日に行われた皇學館クラブ応援メッセージ募金授与式

令和5年度 教学振興会寄付金納入状況報告

Summary table comparing 令和5年度 (FY2023) and 平成26年度~令和5年度合計 (Total FY2014~FY2023) across categories like 宗教界, 企業, 館友, etc.

尊の会会員

- 浅岡 天立 浩嗣
岡原 哲雅
今屋敷 和彦
岡澤 和彦
佐藤 裕実
佐藤 敦
多田 光久
田中 まさ子
豊田 祥史
中村 明史
野村 尚徳
野村 海徳
日比野 秀海
平田 和仁
福田 真也
布田 拓也
本谷 正史
三谷 剛史
宮岡 清光
安田 義洋
吉安 洋明
伊藤 紀明
白藤 欽也
加藤 徹也
北仲 徹也

- 酒井 幸浩
佐々木 智生
高木 隆弘
玉置 英一
中村 昌樹
西岡 信子
西村 剛毅
村田 彰彦
山崎 美保子
山崎 亜衣子
山崎 仁
山崎 剛毅
西村 彰彦
西村 剛毅
中村 昌樹
中村 剛毅
玉置 英一
高木 隆弘
佐々木 智生
酒井 幸浩

- 東堀 喜生
堀田 則彦
前田 靖彦
脇田 喜生
朝本 夕子
安達 秀理
安達 明子
泉達 孝史
一海 隆史
伊藤 達史
伊藤 浩史
伊藤 剛毅
伊藤 彰彦
伊藤 仁
伊藤 剛毅
伊藤 彰彦
伊藤 仁
伊藤 剛毅
伊藤 彰彦
伊藤 仁

- 松浦 幸英
松尾 清弘
松岡 隆弘
松本 治法
松本 弘幸
水谷 公隆
水谷 昭彦
安田 昭彦
安田 昭彦
安田 昭彦
安田 昭彦
安田 昭彦
安田 昭彦
安田 昭彦
安田 昭彦

- 北橋 道一
楠木 孝輝
小松 利道
小松 孝輝
小松 利道
小松 孝輝
小松 利道
小松 孝輝
小松 利道
小松 孝輝
小松 利道
小松 孝輝
小松 利道
小松 孝輝
小松 利道
小松 孝輝

- 阿形 幸信
阿形 幸信
阿形 幸信
阿形 幸信
阿形 幸信
阿形 幸信
阿形 幸信
阿形 幸信
阿形 幸信
阿形 幸信
阿形 幸信
阿形 幸信
阿形 幸信
阿形 幸信
阿形 幸信

個人情報保護に関する法律の施行に伴い、ご芳名の掲載をご希望され
ない方については、別記とさせていただきます。
●宗教界1社 ●館友4名 ●尊の会会員32名 ●一般(篤志家等)1名
●高等学校保護者12名 ●中学校保護者3名 ●本法人関係28名

研究開発推進センタートピックス

平成25年に発足して以来、研究の成果を発信し、地域の知の拠点としての役割が期待がかかる「研究開発推進センター」。令和5年度の活動を報告します。

神道研究所

「神道史から見た明治維新」―公開学術講演会

歴史学者・宗教学者で、神道史・国学史研究をご専門とする國學院大學神道文化学部の武田秀章教授を講師に迎え、公開学術講演会「神道史から見た明治維新」が令和5年7月6日、本学4号館431教室で開催され、37人が参加した。



講演中の武田秀章教授

武田氏は、鳥取藩出身の国学者門脇重隆について、門脇家資料を中心に用い、福羽美静らと

近代皇室祭祀制度・神祇制度形成・国民強化体制創出に尽力し

たと述べ、祭政一致の実現が重綾の若年以後の課題であったと講じた。

この講演の内容は、「皇學館大学研究開発推進センター紀要」第11号に収録予定である。

「澤瀉久孝の万葉字と周辺」―公開学術シンポジウム

学園報99号で既報の通り、公開学術シンポジウム「澤瀉久孝の万葉字と周辺」が令和5年12月16日、本学神道博物館講義室で開催され、30人が参加した。

過程を説明するために、今回のシンポジウムでは、調査過程で確認した史料の紹介と、澤瀉久孝の万葉字とその周辺に関する研究報告が行われた。

本学附属図書館の澤瀉久孝文庫には、数多くの万葉集関係の資料が所蔵され、澤瀉博士の万葉学形成を考える上でとりわけ貴重な資料群である。その形成

「新史料」藤波家伝来澤瀉本「神祇令」巻第三「紹介」、大島信生(本学教授)「澤瀉久孝の『萬葉集注釋』」、田中康二(本学教授)

「国学者の万葉研究と詠歌」、齋藤平(本学副学長・教授)「澤瀉久孝と新村出」
なお、報告の内容は、「皇學館大学研究開発推進センター紀要」第11号に収録予定である。



古代律令研究の貴重な史料となる「神祇令」が68年ぶりに発見された

佐川記念神道博物館

教養講座「伊勢御師の家伝資料を紐解く」―橋村一族のすべて―を開催

神道博物館教養講座は、一般の方を対象とした生涯学習のための講座である。令和5年度は伊勢御師橋村大夫関係資料をテーマとして、4名の講師により以下のとおり開催した。

第1回 5月27日
「足代弘訓と橋村正克」
講師 浦野 綾子
皇學館大学研究開発推進センター准教授・学芸員

第2回 6月17日
「橋村家と檀家の近代」
―参宮人帳を手がかりに―
講師 谷口 裕信
皇學館大学文学部教授

第3回 10月21日
ギャラリートーク

「ある伊勢御師の軌跡」―新発見・橋村家伝来資料から―

講師 小林 郁
皇學館大学研究開発推進センター助教・学芸員

第4回 11月18日
「伊勢の石仏・石塔」
講師 竹田 憲治
皇學館大学非常勤講師

夏休み親子教室

夏休み親子教室は、日本の伝統・郷土の文化に関する体験を通して、子ども達に日本人の感性や心を学んでもらうことを目的としている。昨年度より佐川記念神道博物館学芸員監修のも

と、本学の学芸員課程履修生が企画・運営をしている。令和5年度は「立版古を作ろう」(7月30日)、「和本ノートを作ろう」(8月4日)の2企画を1日ずつ開催。伊勢市内の小中学生とその保護者、53組128名にご参加いただいた。(詳細は学園報第97号)



「立版古を作ろう」の様子

企画展「ある伊勢御師の軌跡」―新発見・橋村家伝来資料から―



展示風景

「」が令和5年10月2日、11月30日に開催された。中世近世における熱狂的な伊勢参宮ブームを牽引した「伊勢御師」の姿は、現存する多くの歴史資料から読み解くことができる。本展では、代々神宮権禰宜を務め、約31万軒の檀家を擁する御師でもあった橋村一族について、近年新たに発見された膨大な家伝資料を

史料編纂所

古文書講座と公開講座が好評

一挙公開し、「お伊勢参り」の立役者である伊勢御師の実態や、御師制度廃止以降の橋村一族の動向について紹介した。

史料編纂所では、例年通り、一般市民の方々に編纂所の事業内容を知っていただくために、古文書講座と公開講座を実施しております。令和5年度は、7月と9月に谷戸佑紀准教授(文学部国史学科)を、10月と12月に小林郁助教(研究開発推進センター)をそれぞれ講師に迎え、中近世の御師関係の文書についてお話しいただきました。古文書の一字一字の解説に熱心に取

り組んでおられる聴講生の方々が印象的でした。また、9月には恒例の公開講座を開催し、荊木美行教授(史料編纂所)が「古代の志摩国」という演題で、正倉院文書の「志摩国輸庸帳」について講演しました。こちらは、令和6年度で停年を迎える荊木教授の、最終講義でした。

また、史料編纂所では、編年史料集や古文書の翻刻に取り組みますが、5年度は、第1部門の成果として、「日本後紀



内宮御師の古文書について話す谷戸佑紀准教授

朝見神社所蔵分・福島信吾氏所蔵分を活性化してまいりましたが、今回神宮文庫所蔵のものを翻刻したことによって、関係文書の翻刻はすべて完了しました。これによって、中世以来の福嶋(福島)御塩焼大夫の活動を把握できるようになったことは、御師研究にとっては大きな福音ではないかと思えます。

『日本後紀史料』は先に完結した『続日本紀史料』全20巻22冊につき大事業で、8年後に控えた創立150周年の記念の年までに完成することを目標に掲げ、関係者は日夜努力いたしております。今後とも大方のご支援を乞う次第です。

学生が出土品の洗浄作業 宇治おはらい町の歴史の一端が明らかに

皇學館大学考古学研究会

令和6年2月21日、本学考古学研究会に所属する学生が株式会社湊の敷地内にある宇治の自治組織の役所跡の発掘調査で出土した遺物の洗浄作業にあたった。

これは、皇大神宮(内宮)の鳥居前町として発展してきた宇治おはらい町の歴史を明らかにしようと、同研究会が令和4年から同5年にかけて3回にわたって行った学術発掘調査の一環。研究会を率いる



洗浄作業後は復元に掛かる

岡田登本学名誉教授は慶光院邸敷地内「常慶院跡」、百五銀行内宮前支店改築現場「中川新神主邸跡」今回の「宇治会合所跡」の調査によって、宇治の町は下流域から宇治橋前の上流域へと埋め立てによって開発が進んできたことがわかったと語る。さらに「宇治会合所跡」では約130枚に及ぶ銅銭が出土したことから、「三重県下においてこれだけの狭い範囲で大量に出てくるのは特異。埋め立てに際して、土地の神様を鎮めるために撒いたのではないかと推測した。

発掘作業から参加している若林祥吾さん(国史)は「出土品に焼け跡がないので地震など天災によって割れたものではなく、意図的に壊して埋めた説が有力」と語り、「掘る

のも楽しいが、接合する土器片を見つけて復元する作業も好き。一つひとつ、掘った成果が形になっていくのがうれしい」と話した。岡田教授は「将来学芸員をめざす学生にとって、こうした経験を積んでいるかどうか大きな差となる。埋蔵品は本来博物館のガラスケースの中に展示され、見ることはあっても触れることはできない。発掘調査や洗浄作業を体験した学生は埋められていた場所や状態から仮説を立てたり、出土品の重さや手触りを実際に肌で感じたりして、貴重な学びの機会になったはず」と話した。

